

# Camping Safety 2025

アウトドアシーズンを安全に過ごすためのポイントを紹介

# キャンプ 安全の日 2025

7月20日(日)はキャンプ安全の日

夏のアウトドアにおける安全啓発  
全国一斉キャンペーン 7/1~8/31

## 減災につながるキャンプの知識と技術

日本キャンプ協会は、毎年7月の第3日曜日を「キャンプ安全の日」と定め、安全に関する情報を発信してキャンペーンを展開しています。

今回は「減災につながるキャンプの知識と技術」というテーマを設定し、キャンプの体験や考え方をどのように減災に活かしていくのか考えてみました。

減災に役立つアウトドアスキルだけでなく、組織キャンプ<sup>\*</sup>におけるソフトスキルの視点がどのように減災につながっていくのか3つのエピソードで紹介します。

<sup>\*</sup>組織キャンプ (Organized Camp) : ある目的を達成するために十分に準備され、計画されたプログラムを持ち、野外でのグループ活動や共同生活を通じて、キャンパー (キャンプ参加者) に対して楽しく創造的かつ教育的な体験の機会や場を提供するキャンプのことである。また、身体的、精神的、社会的成長に寄与するための指導者と自然環境資源が用意される。(日本キャンプ協会定義より)

キャンプ指導者資格について興味のある方はこちらまで→  
<https://camping.or.jp/leader>



## episode

### 1 発災直後

想像力を働かせて情報を収集し、見えないリスクに備える

### 2 避難生活

状況分析と最適解を導く思考法が、減災の力になる

### 3 ハードスキルとソフトスキル

心構えと確かな技術が、多くの方の安心・安全に

詳細は  
裏面



## episode 1 発災直後

## episode 2 避難生活

2018年9月6日03時07分、北海道胆振東部地震が発生しました。

その時私はキャンプ実習の最中で、大きな衝撃と揺れで飛び起きました。すぐにテントで寝ている実習生の様子を確認しましたが、何事もなかったかのように寝ていました。特に混乱もなかったため、私もそのまま就寝しました。起床時間となり、教員間で地震発生の確認と今後の方針について検討していましたが、実習生の様子や実習の運営には影響が無いことからこのまま進めようと考えていました。

その時、学科長から「すぐに実習を中止して大学に戻ってくるように」という内容の電話がありました。

道内全体で混乱が生じていて、今後どうなるか予測ができないためとのことでしたが、目の前で活動している実習生の様子とのギャップにとても戸惑ったのを覚えています。その後、幸いにも実習に関わる教員、スタッフ、実習生全員が無事に帰ることができました。

この体験における最大の改善点は、地震が発生したタイミングで情報を集めるべきだったということです。目の前の実習生が無事であるから問題が無いのではなく、実習を取り巻く様々な関係性にまで視野を持っていたならば、すばやく情報を集め、より慎重に対応を検討できていたはずでした。安全に関わる視野を広くもつための「想像力」の重要性を強く感じた体験でした。

大規模な災害が発生すると、果たして私たちはどこで過ごすことになるのでしょうか。

学校や公民館などの避難所？ 自宅？ 近所の公園？？ ここではどんな道具が揃うのでしょうか。

食材や水分など生きるための道具はどれくらい手に入りそうですか？ 天気が悪かったら？ 状況が変わって最初の避難所にいられなくなったら…？

よく考えると、災害時の避難生活は定まった展開にならないことの方が多そうです。

このような状況でも心を落ち着かせて生き抜くためには、日頃から状況を分析してその時の最適解を導き出す「クリティカル・シンキング（critical thinking）」という思考法が最も必要な減災スキルとも言えそうです。

キャンプでは野外でギアやスキルを用いていかに快適に過ごすかを考えます。屋外でリラックスできる空間づくりに必要な道具やスキルについて知っていれば、たとえ必要な道具が足りない、環境が快適ではなくても、どうすれば理想に近づくことができるか（ベストが無理ならベターを！）を具体的に思考し、そのためのアクションを起こすことができます。

キャンプやアウトドア活動は「減災思考のトレーニング」にもってこいなのです。

そういった視点を持ちながらキャンプを捉えなおしてみるのも面白いかもしれませんね。



key point

クリティカル・シンキングが無理ならベター

key point

初動対応 情報収集 想像力

## episode 3 ハードスキルとソフトスキル

災害時に役立つアウトドアスキルは沢山ありますが、特に生命維持に欠かせない飲食に関連するスキルは重宝します。

たき火やガスストーブ等の火のつけ方・扱いに慣れていないと、資源に限られた災害地の環境下でも大いに力を発揮できるでしょう。とりわけ寒冷時には暖をとるためにも火は欠かせません。また水道水が確保できない場合に、雨水や沢の水を煮沸（化学物質の完全除去はできない）して、できるだけ安全な水を確保するノウハウを身に付けておくといいでしょう。

被災地での生活が長時間にわたると、誰でもストレスが蓄積していきます。キャンプにおけるグループダイナミクス（集団の成長過程）に置き換えると、災害時に体育館などの同じ生活空間で過ごす集団も葛藤期（ストーミング）のような状況になり得ます。そのような時に、キャンプ指導で経験したリーダーシップやスーパーバイズの手法が大いに役立つ可能性があります。また身体を使ったちょっとした遊びを提供することができれば心身のリフレッシュにつながるため、キャンプで行っている多様なレクリエーションゲームが大いに活かれます。

日頃からの心構えや確かなキャンプ技術の習得が災害時に多くの方の安心と安全につながっていきます。

key point

アウトドアスキル グループダイナミクス リーダーシップ